『　　』デイズ

風神玲衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
『　　』デイズ

【Ｎコード】
Ｎ４４６３ＢＡ

【作者名】
風神玲衣

【あらすじ】
そしてまた、カゲロウは嗤い出す。

これでいいの。

これでいいの。

これしか、ないの。

本当に？

考えたって、カゲロウが嗤って全て眩ませる。

考えたって、考えたって。

叫んだって、喚いたって。

目の前のカゲロウは、私の顔したカゲロウは。

歪んだ顔して、嗤ってる。

でもそれが気に入らなくて。

『ざまあみろよ』って、逆に笑ってやりたくて。

ただひたすらに、自分を犠牲にし始めた。

もう何度、『彼』を庇ってきただろう。

毎日毎日、おんなじことの繰り返し。

昨日は鉄柱を迎えに行って。

今日はトラックとこんにちわ。

当然ながら夏は大嫌いになり。

でも隣にいる君は至極当然大好きで。

繰り返した夏の日々は、もう何度眩んだのかもわからない。

でもきっと。

いつかきっと。

『彼』も諦めてくれるから。

私なんかいなかったって。

陽炎に揺られ、私が消えてなくなれば。

彼がそれを受け入れてくれたなら。

きっと、それがたったひとつの結末だから。

けれど。

やっぱり今回も駄目だった。

『彼』は私を諦めてくれなくて。

何度も何度も。私は『彼　』に笑いかけたのに。

もういいよって。何回も笑いかけたのに。

『彼』は私を押し退けて、『私』に向かって笑ったんだ。

いつかの私がそうだったように。

『彼』が何度もいなくなり。

『カゲロウ』が私を噬い続けていた頃に。

『彼』を押し退け、鉄柱にこの身体を貫かれ。

血と共に吐き出した、皮肉気に噬ってやった、あの言葉を。

『彼』は嗤って言ったんだ。

文句ありげな『カゲロウ』に。

「ざまあみろよ」と、嗤うんだ。

目が覚めた私は、独りで小さく呟いた。

駄目だったよと、猫を撫でて呟いた。

そんなよくある、夏の日のこと。

『私の努力』が、ここで終わった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4463ba/

『　　』デイズ

2012年1月11日23時49分発行